

医療的ケア児支援の専門職 県養成研修、15人修了 事例に基づき計画作成



医療的ケア児の支援計画作成
に向けて話し合う受講者ら

重度の脳性まひなどで人工呼吸器を使用し、1日5回の経管栄養の注入が必要。在宅での生活に向けて、同センターで1カ月間の母子入院中との想定で話し合った。

「退院後の受診の付き添いに、ヘルパーを調整した方がよいのか」「自宅の環境整備はどこに相談すればいいか」など、検討が必要な事項を確認。訪問看護や市町村の保健師など、実際に使える支援を考えながら計画作り上げた。

研修修了後、受講者からは「医療的ケア児に関わる機会がなく、使える福祉サービスは少ないと思っていた。さまざまな工夫の仕方があると知り、支援に前向きに関わりたいと感じた」との声が出た。

県立医療療育センターの豊野美幸・小児科長は「医療的ケア児をどうすればサポートできるか、各地域で積極的に考えられるようになってほしい」と呼びかけた。

(三浦ちひろ)

日常的に人工呼吸器管理などが必要な「医療的ケア児」を支援する専門職「医療的ケア児等コーディネーター」の2022年度県養成研修が行われ、15人が修了した。障害福祉課によると、県内の修了者は計92人となった。

コーディネーターは医療的ケア児と家族の相談対応や、関係機関の連携調整などを担う。主に地域の相談支援事業所などに配置されている。18年度から自治体による養成が

位置付けられ、同年度は県、19年度からは県立医療療育センター（秋田市）が研修を実施している。

22年度の研修は計5日間にわたり実施。各地の相談支援事業所や訪問看護事業所から、相談支援専門員や看護師らが参加した。最終日の2月22日は秋田市の県JAビルに受講者が集まった。

グループに分かれ、モデル事例に基づいて支援計画を立てた。事例は1歳の女の子で、